

ティーチング・ポートフォリオ

長崎 靖子

(記入日：2020年 9月 21日)

1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

日本語学(1) (日本文化学科前期選択必修科目 2単位)、日本語の歴史(1) (日本文化学科前期選択必修科目 2単位)、日本語教育入門 (日本文化学科前期選択必修科目)、文章表現法 (日本文化学科前期選択必修科目 2単位)、日本語教育演習 (日本文化学科前期選択必修科目 2単位) など

2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

- ・母国語である日本語を、国語教育並びに日本語教育の立場から捉えることができるようにする。
- ・日本語の音声、文字、語彙、文法に関する基本的な知識を学び、国語教育並びに日本語教育を行う力を養うことに努めている。

3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

日本語教育入門は日本語教員養成コースの必須科目である。今回は本授業に関する報告を行う。

授業では国語教育と日本語教育の違いを示し、日本語教育をするために、日本語を外国語としてとらえる視点を養っている。今回、コロナ禍でオンライン授業となったため、特に文化庁や厚生省等のホームページを活用した。文化庁のホームページからは、日本における留学生や外国人児童生徒の現状に関する報告書を閲覧させ、チャットを使ってお互いにコメントを記述させた。また、各地域における日本語教育の現状を調査する宿題を課し、各自の報告を共有した。厚生省のホームページからは、中国や樺太の残留邦人に関する資料を紹介し、各自に閲覧させ、チャットでのコメント書かせこれを共有した。

日本語教育の教材の項目では、文型を作る課題を提出させこれを共有した。日本人の言語生活の項目では、日本人の言語生活の特徴などを考える課題を出し、これもチャットを用いて各自の意見を述べ合い、これを共有した。

4 成果 (どうだったか：結果と評価)

今回はチャットを使って意見交換が行われたが、普段あまり発言をしない学生も議論に活発に参加し、自分の意見を述べていたことが特徴的であった。学生各自の意見を共有しあえたこと、特に普段はあまり手を上げない学生が優れた

意見をやるなどの発見もあり、各々が発表しやすい場を提供することが大切であると改めて感じた（エビデンス1）。また、今回、各地域の日本語教育の現状を調べて提出するという課題や手作りの教材を作る課題を出したが、ほとんどの学生がきちんと調査を行い、またオリジナルな教材を提出していた。その課題を皆で共有することで、後半になるにつれ意見交換も活発になっていった。それぞれの課題に対し、個人個人にフィードバックすることも必要であるが、課題を皆で共有することにより意欲も増すという発見があった（エビデンス2）。

5 今後の目標（これからどうするか）

今回急遽オンライン授業をすることになったので、授業の進め方に関してはさらに検討していく必要があるが、オンライン授業で行った授業の進め方は、対面授業にも応用できると考える。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- 1 teams 内のチャット（team 内で公開）
- 2 学生への課題をまとめた資料（team 内で公開）
- 3 文化庁ホームページ 厚生省ホームページ

ティーチング・ポートフォリオ

岩崎 利彦

(記入日：2020年09月5日)

1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

スポーツ(2)

2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

学生がスポーツの楽しさを体感するとともに、自身の身体組成に興味を持ち、生化学的根拠を理解し、知識を身につけるとともに、自身の身体で実践することで、継続的に QOL 向上に取り組む態度を身にけること。

3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

なにより「スポーツの楽しさ」を体感できるよう走る事の「楽しさ」「爽快感」を実践において経験できるようにした。

スポーツ文化的側面を理解してもらえるように、「遊びのルール化」「オリンピック」などの話しを交え、メディアで見ると自身が行うスポーツの繋がりを理解できるように工夫した。

また人生 100 年時代を理解し、健康的な身体を手に入れることは、QOL の向上に不可欠であることを解説しつつ、そのためのトレーニング (身体づくり) 方法を、科学的根拠と指標を提示しながら、学生個々にあった負荷で体力づくりが行えるようにした。

4 成果 (どうだったか：結果と評価)

文化的側面の理解においては、実践において「楽しさ」を知り、授業の回が進むほど、ランニングへの積極的な参加が増えていく傾向は前年度同様であった。

「体力づくり」においては、科学的な根拠を示しても、自身の身体に負荷をかけることから積極的になれない面が多く見受けられるが、「立ち姿勢」「歩き方」など、基本的な事から取り組むことで積極性に改善が見られた。

5 今後の目標 (これからどうするか)

「体力づくり」への積極的参加へのさらなる工夫

「オリンピック」と関連付けた解説

6 エビデンスとなるもの (資料の種類などの名称)

配布資料 運動時の心拍数の変化 (非公開)

クーパーテスト (非公開)

ティーチング・ポートフォリオ

伊藤 純

(記入日：2019年9月23日)

1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

日本文化学科専門科目では「日本文化入門(1)」「日本の伝統芸能(1)(2)」「日本の民話・神話(1)(2)」「日本の宗教と思想(1)(2)」「日本の祭りと儀礼」「日本風俗史」「プレゼミナール」「日本文化専門演習VI(1)(2)」「文献演習(1)(2)」、共通教育科目では「民俗学」を担当している。大学院では「文化人類学特論Ⅰ・Ⅱ」を担当している。

2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

学生の関心や問題意識を尊重しながら、学生自ら課題を設定し、課題に対する適切な方法論を用いることができる人材を育成することが教育目標である。特に文化を取り扱う領域のため、学生が民俗学・文化人類学の知識、方法、視座を学ぶことにより、自文化および異文化、さらに自己および他者に対する理解を深めることを目指している。

3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

「日本文化入門(1)」をはじめとする講義科目では、写真や動画を使ったスライドを積極的に利用し、初学者でも授業内容を理解できるように工夫した。フォローアップとしてリアクションペーパーを配布し、質問があったときは、次週で回答した。「日本の伝統芸能」では、WEBで閲覧できる専門的な情報(「国指定文化財等データベース」「e 国宝」などの専門的なページや関連する動画、クラウド上の資料など)に授業時間外でもアクセスしやすいようQRコードを利用した。演習科目では、図書館のグループ学習室を利用したライブラリワークや巡見や現地調査などフィールドワークを取り入れて(コロナ禍で今年度は中止している)、学生自ら必要な資料や文献を収集できるように指導した。

ICTを利用した授業では、遠隔授業でオンデマンド授業を行った。また、対面授業でもMicrosoft365を積極的に利用している。

4 成果 (どうだったか：結果と評価)

「日本文化入門(1)」では、読解が難しい用語やテキスト内の不十分な説明

に対しても、写真や動画などを補助的に使用した結果、自らの経験に引きつけて理解していることが確認できた（エビデンス1）。「日本の伝統芸能」では動画閲覧により、伝統芸能への関心が高まった（エビデンス1）。「日本文化専門演習（1）（2）」「文献演習（1）（2）」においては、学生自ら発表に必要な文献や資料の収集ができるようになり、学生相互で討議ができるようになった（エビデンス2）。

5 今後の目標（これからどうするか）

事前・事後学習を促すために、基礎文献のリストを事前に配布し、読解のためのアドバイスをを行う。また、学修の成果をみるレポートの機会を増やす。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

1 リアクションペーパー（非公開）、レポート（非公開、評価後に学生へ返却）

2 授業配布物

「テーマの設定、文献、資料収集の方法」「図書館の有効利用」など

（非公開、office365 [https://kgwuacjp-](https://kgwuacjp-my.sharepoint.com/personal/j_itou_kgwu_ac_jp/_layouts/15/onedrive.aspx)

[my.sharepoint.com/personal/j_itou_kgwu_ac_jp/_layouts/15/onedrive.aspx](https://kgwuacjp-my.sharepoint.com/personal/j_itou_kgwu_ac_jp/_layouts/15/onedrive.aspx)）

ティーチング・ポートフォリオ

日本文化学科 千野裕子

(記入日：令和2年9月30日)

1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

古典文学概論 (選択必修科目 1~2 年前期)、古典文学講義 (選択必修科目 1~2 年後期)、日本文学史 (古典) (選択必修科目 1~2 年前期)、日本文学と女性 (古典) (選択必修科目 2~3 年後期)、日本文化専門演習Ⅱ (古典文学) (選択必修科目 3 年前後期)、文献演習 (必修科目 4 年前後期)、文学 (共通教育科目 1~2 年前期) など

2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

学生が日本古典文学に関する知識と理解を深め、自らの力で作品の解釈を行うことができるようになることにより、自身とは異なる価値観を認め理解するための深い思考力を身につけること。

3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

令和2年前期は遠隔授業であったため、次のように取り組んだ。

古典文学概論・日本文学史 (古典)・日本文学と女性 (古典)・文学は、授業のレジュメ (pdf) と説明のための音声 (MP3) を用意し、Microsoft Teams で配信した。学生への連絡・指示等はチームのチャットを用い、質問に対応できるようにした。リアクションペーパーは Microsoft Forms を用い、作品内容に関する受講生の解釈を書かせるようにし、次回授業時にチームのチャットでのフィードバックを行った。

日本文化専門演習と文献演習では、作品理解を深めるための議論を重視し、Webex Meetings を用い、リアルタイムで双方向授業を行った。また、レジュメの提出などの補助手段としては Microsoft Teams を使用した。連絡に関しては LINE も併用し、授業外でも学生が積極的に質問や意見を伝えられるようにした。

資料収集能力を身につけるため、日本文化専門演習ではパソコンやスマートフォンを実際に利用させ、各種データベースの検索方法を指導した。

4 成果（どうだったか：結果と評価）

古典文学概論・日本文学史（古典）・日本文学と女性（古典）・文学では、回を追うごとに多角的な作品の見方をするような受講生が増えた。また、Formsの入力の気楽さからか、例年よりも質問が多かった（エビデンス2）。

日本文化専門演習の受講生は自らの力で先行研究をはじめとする資料を収集することができるようになってきているが（エビデンス1）、図書館等に足を運びにくい状況下であり、例年よりも困難であった。

なお、日本文学と女性（古典）の学期末レポートおよび文学の最終課題において、いわゆる「コピペ」を行う学生があった。個別に注意・指導を行ったが、研究倫理に関して授業内でさらに取り扱う必要性が明らかとなった。

5 今後の目標（これからどうするか）

演習科目だけでなく講義科目でもレポート課題に関する基礎的指導を行っていきたい。データベース利用などの資料収集の実践を試みる機会を増やすとともに、その際に必ず気をつけるべき研究倫理に関する指導を行う。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

1. 授業のレジュメ（非公開）
2. リアクションペーパー（非公開）